

富山県の河童伝承における 恩恵と崇りの両義性

—行動類型からみた語りの機能に着目して—

人文地理学4年 安田柚菜

1

研究対象

妖怪伝承は多様で全体把握は困難 ⇒対象の限定

水辺にまつわる妖怪は
古くから暮らしと結びつく

水と密接に繋がり、人間社会との具
体的関係を示す語が多い

河童伝承

対象地域 ⇒富山県

- ・水環境が豊富、水との関わりが生活基盤と結びつく
- ・「恵み」と「危険」の両義性→水辺の怪異が語られやすい

3

研究背景

妖怪研究

妖怪 = 「災害・不安・嫌悪事象」の説明装置

民俗学
民間信仰の一部

文化人類学
民俗社会の世界観を表
象する資料

妖怪伝承を社会の価値観や記憶を映す「表象」や「メディア」として捉える

⇒しかし地域史と伝承内容の接続研究は少ない

2

妖怪に関する既存研究

高田・近藤 (2019)

妖怪伝承を通じて自然災害の捉え方を分析。

伝承に含まれる災害要素から妖怪を「好ましくない事象」の説明装置として機能していると読み解く。

鈴木・于 (2020)

富山県の怪異の種類と分布比較から、社会的機能の時代変化に注目した。

大正期：可視的かつ種類豊富

現代：怪異は画一化

平野部から山間部へと後退

社会の価値観や怪異に対する意味
づけの変化を反映

4

河童に関する既存研究

中尾ほか (2016)

河童伝承を通じて、地域社会における「異人」や差別の構造を読み解く。

河童は被差別民・漂泊民のような周縁的存在と結びついて語られる。

非常民として、**社会の“内”と“外”を分ける境界の役割**

差別を追認するような形で伝承されてきた

民話の世界では**ケガレ**を背負った人間を河童と表現

中村 (2019)

河童の行動モチーフを分類し、年代比較により歴史の変遷を分析。

河童イメージの**歴史的・文化的意味**を考察する枠組みを提供。

5

類型の分類

- (a) 人に対する河童の攻撃 **単独攻撃型**
人を引く・人と争う・馬を引く・女性を犯す・尻をなでる
- (b) 人の反撃と河童の敗北 **攻撃→敗北型**
捕縛・手切り・負傷・祈封
- (c) 人への河童の帰順 **攻撃→敗北→帰順型**
謝罪・魚贈与・手接ぎ・宝贈与

a, b+c

出典：河童の日本史 (2019) p.52-64

7

研究目的

伝承は多様で地域差や機能の把握が困難

⇒ 内容・役割に基づき類型化



- ・富山県の河童伝承の内容が歴史的・文化的背景をいかに反映して形成されてきたのかを明らかにする。
- ・河童伝承が地域社会において果たしてきた意味や機能を考察する。

6

分析対象

「獺老而成河童者」獺が老いると河童になる 出典：下学集(1968) p.62

- A. 獺が年を重ねることで河童に化ける技術を会得する
B. 獺から河童へ全く別物になってしまう

富山県の河童の呼称

「河原坊主」「川太郎」「川郎」「かぶそ」「かわうそ」
「テガワラ」「がめ・かめ」・・・

カワウソの名称を含む河童伝承も対象

線引きは曖昧

8

伝承から見る河童像

収集した伝承：67話

形状

- ・頭の頂に皿がある
- ・手足が簡単に抜ける
- ・背中に甲羅をつける
- ・指には爪や水かき
- ・人間の子供のような背格好
- ・頭髪はおかつぱ
- ・尾があるものもある

習性

- ・人間に化ける
- ・馬や人を引く
- ・子供を溺死させる
- ・尻子玉を抜いて食べる
- ・魚やご馳走を盗む
- ・人間を騙す
- ・人の背中に負ぶさりたがる
- ・女の尻をなでる
- ・義理堅い
- ・秘宝を伝授する
- ・魚を持ってくる
- ・皿に水がたまると千人力
- ・唾をかけられると死ぬ



図1 河童図①



図2 河童図②



図3 河童図③

出典：広景『江戸名所道戯尽 二 両国の夕立』辻岡屋安政 6、国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/1308263>
 鳥山石燕画『百鬼夜行 3巻拾遺3巻』[1]、長野慶勤吉、文化2 [1805]、国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/2553975>
 水木しげる 2014、『日本妖怪大全』講談社文庫、197頁

類型の分類

攻撃型：15話

人や馬が河童に引き込まれたり襲われたりする。

共生型：4話

河童が人間に知恵を授けたり人助けをする。

悪戯型：30話

河童が人間に悪戯を仕掛ける。害はない。

複合型

(懲罰→共生)：17話

最初は脅威として登場するが、人間に知恵や宝を与える存在へと変化する。

崇り・報復型：3話

河童を粗末に扱った人間に崇りや報復が下る。

伝承の分類

攻撃→敗北→帰順の定型パターンが多い

攻撃（駒引き）→敗北（捕縛）→帰順（妙薬の製法伝授）

河童は「怖い存在」「役立つ存在」両方で語られる

“同じ行動の分岐”ではなく
 “行動の出発点による展開の違い”

崇りのモチーフ

共生のモチーフ

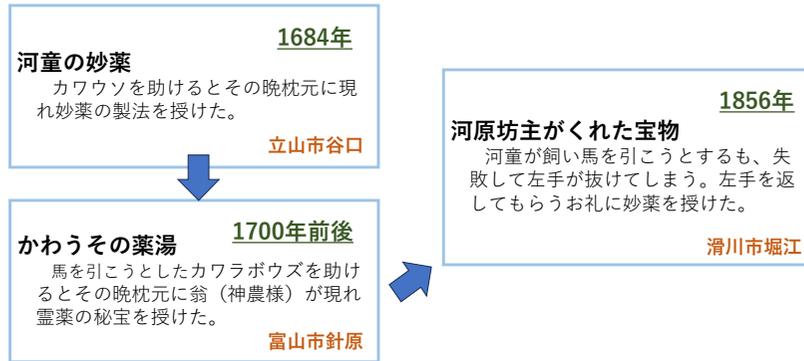
※同一説話において河童が複数の行動、複数の結末パターンがある場合それぞれ別個に数えた。

表1 河童の行動と行為の結末の分類

行為の結末	失敗							成功
	約束する	接骨の方法を伝授する	妙薬の製法を伝授する	宝を贈る	魚を討ち取る	返り討ちにあう	捕縛される	
人を襲う	○	○	○			○	○	◎
馬を引き込む	○	○	◎	○	○			○
尻をなでる		○		○				
悪戯をする					◎	○		◎
化ける								◎
人を騙す								◎
物を盗る						○		◎
作物を荒らす							◎	
機を貸す							○	
助けてもらう		○		○			○	
人を助ける								○
その他	○						◎	

○：一話だけの伝承がある
 ◎：複数の伝承がある

河童が妙薬を伝授する話①



13

河童が妙薬を伝授する話②

妙薬譚の多くが船運や他国との流通が盛んな地域に分布

「妙薬 = 外来の薬や知識」

河童という形で物語化

経済や生活に直結する
 「実利的な知識の媒介者」
 としての像も

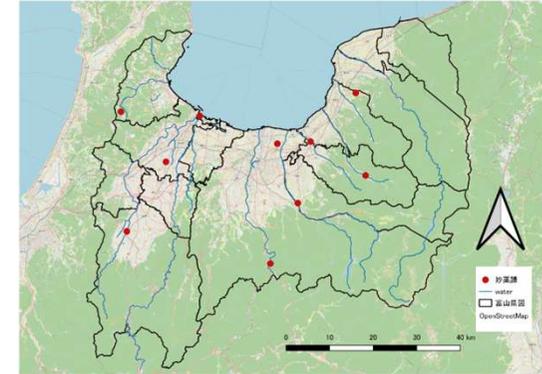


図4 河童妙薬譚の分布と河川ライン
 使用データ：国土数値情報（河川データ）
 2008. 国土交通省

河童が妙薬を伝授する話③

江戸時代

医師の診察を受けることが困難…一躍を担った「**売薬**」

薬そのものに
 権威・格式を
 与える

修験道売薬

越中富山の修験者たちは全国の檀那場を回って立山権現の靈験を解き厄除け、病氣治癒の効験あるものとして**生薬を持参・配布**

根井（1980）

著名な売薬、医薬⇒神仏の夢告**多い**

背景には神仏の信仰、宗教者の活動が必要であった。



図7 預袋 家伝秘宝 養立湯

宗教的存在（神・靈獣）が薬の「正統性」を担保

出典：養立湯-河童を助けて授かった薬 針原五香-(2022)p.8¹⁵

河童が妙薬を伝授する話④

衰退後⇒薬は**実利的知識**に

異界的存在の河童は「**知識の媒介者**」として機能を担う

河童は水の神の零落したもの

秘法伝授は敗北の後始末ではなく、**神格保持の積極的行動**

出典：河童の研究（1994）p.74-75

宗教的権威→民俗的権威

1870年以後（売薬取締法） 妙薬モチーフ減少

薬文化の歴史と重なり
 河童の役割は変化

河童が妙薬を伝授する話⑤

河童伝承に「河童の妙薬」の話が入っている由縁

立売りの売薬人（香具師）は商品の薬を河童伝授の妙薬と言い初め人を集めた。河童伝授の話は世にうけたため広く語り歩いた。

中心となったのは越中富山の薬売り

販売促進用として景品を贈る。大人には版画、子供に紙風船。

景品版画の一つに『水虎十二式之図』と一致する河童図

富山売薬の全国的な販売網を考えると河童図の影響はかなり大きかったのでは、

出典：河童考 その歪められた正体を探る（1993）p.188-197 17



図5 浩雪坂本先生 鑑定 ほか『水虎十式品之圖』

出典：浩雪坂本先生 鑑定 ほか『水虎十式品之圖』, 林奎文房潤暉,[江戸後期]. 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/2543033> (参照 2025-11-12) 18

河童が報復する話①

1704~1710年

庄川の河童

胡瓜を盗む河童がいたため、胡瓜に毒草を詰めて河童を殺した。死骸を放置していると数万の悪蠅となり、人を襲い畑を荒らした。祠を建てて悪蠅を祀ると一羽も飛ばなくなった。

南砺市城

カワウソの恩返し

爺さんはカワウソを助けたお礼に内緒にすることを約束に願い事を叶えてもらう。大金持ちになった頃、約束を忘れて人に喋ってしまうとたちまち元の貧乏に戻ってしまった。

南砺市利賀村

河童の枕貸し

河童から膳から枕、お金を借りられるだけ借りて殺してしまう。すると、借りていた物がすべてヘクサンボに変わっていた。

南砺市祖山

19

河童が報復する話②

断崖絶壁
山越え、脇道×

五箇地方庄川の東岸 七カ村 1690年~幕末に至るまで流刑人配置所となる

覚書

…「死んだ場合は死骸をそのままにして、牢番は直ちに十村へ届けるように」

出典：上平村史 上（1982）p.53

五ヶ山流刑人＝政治犯の悪人とし、流刑地そのものを同一視

→配所村では流刑の話を楽しむ

利賀村の「二日読」

1679年以降：掟を毎月二日に村人を集めて読み聞かせる

↳百姓の生活全般に関する禁止事項や心構えを詳細に規定

20

河童が報復する話③



図6 流刑小屋

背景には「流刑地」という土地の**負の記憶**

「流刑人」 = 「死骸を放置される存在」 / 「社会から隔絶される存在」
 「河童」 = 「境界的存在」として流刑地のイメージを投影

外部から「**畏怖と差別**」を受け、内部でも異界性を帯びた歴史性がある

共同体の規範を破る→恵み（富や道具）が罰へと反転

内部の規律や共同体維持を重視する価値観

「贅沢や欲望の戒め」→河童伝承が具体的なイメージで村人に浸透

出典：越中五箇山 平村史 続編 21
 (2007)p.298

考察

共生型

薬を与える「共同体の守護者」
 人間社会に受け入れられる

薬や技術の由来を物語化する枠組みとして機能した。

知識や技術がどのように正当化され受容されていくかを説明する物語形式としての河童伝承

崇り・報復型

崇りをもたらす「共同体の負担」
 “死者・異界を粗略に扱ってはいけない”

社会の矛盾や罪悪感を崇りという形で物語化した。

境界・異者表象として人間社会の規範や関係性を映し出す河童伝承

河童伝承は地域社会の「**歴史的役割**」や「**共同体の境遇**」を映し出す

23

異人論の視点から

「異人」に対する偏見や差別意識 ⇒ **異人を妖怪視**

妖怪がこちら側に出現したときは排除しなければならない

しかし…共同体はその“異常”に価値付けを行う

マイナス ⇒ 排除
プラス ⇒ 吸収

異人（流刑人）を河童として否定する根底に<悪意>や<殺意>が隠されている

流刑人はマイナスと価値づけられた存在

考察

「河童」という同じキャラクターに託されながら、地域社会の文脈に応じて異なる意味づけを与えられている。

孤立した現象としての存在×

文化・社会現象や存在と結びついて信じられる。 出典：怪異の民俗学3 (2000) p.434

売薬や修験道と結びつく
知識伝授の存在

流刑や境界意識と結びつく
崇りの存在

規範の維持

境界的役割

時代の変化に応じて像を変え、**社会の規範・歴史・境遇を映し出すメディア**

24

参考文献

- ・アウエハント, C. 著, 小松和彦・中沢新一・飯島吉晴・古家信平監訳 2013. 『鯰絵—民俗的想像力の世界—』岩波書店.
- ・飯田道夫 1993. 『河童考 その歪められた正体を探る』人文書院.
- ・石川純一郎 1974. 『河童の世界』時事通信社.
- ・石黒漢子 1993. 『富山の伝説』桂書房.
- ・五十川飛暁・鳥越皓之 2005. 水神信仰からみた霞ヶ浦の環境. 村落社会研究 12(1): 36-48.
- ・伊藤龍平 2021. 『ヌシ：神か妖怪か』笠間書院.
- ・越中史壇会編 1990. 『富山史壇』1:19. 株式会社国書刊行会.
- ・大沢野町誌編纂委員会編 1958. 『大沢野町誌 上巻』大沢野町.
- ・大島健彦編 1988. 『河童（双書フォークロアの視点）』岩崎美術社.
- ・大野桂 1994. 『河童の研究』三一書房.
- ・折口信夫 1995. 『折口信夫全集 3』中央公論社.
- ・上平村役場編 1982. 『上平村誌』上平村役場.

25

- ・立山町編 1977. 『立山町史 上』637-640. 立山町.
- ・利賀村史編纂委員会編 1999. 『利賀村史 2』利賀村.
- ・富山県編 1973. 『富山県史 民俗編』富山県.
- ・富山県編 1973. 『富山県史 通史編 近世下』富山県.
- ・富山市史編纂委員会編 1987. 『富山市史 通史 上』富山市.
- ・富山市売薬資料館編 2022. 『養立湯-河童を助けて授かった薬 針原五香-』4-6. 富山市売薬資料館.
- ・中尾 聡史・森栗 茂一・藤井 聡 2016. 河童の民話における土木技術者の位置づけに関する民俗学的研究. 実践政策学 2(1): 45-52.
- ・中村禎理 2019. 『河童の日本史』筑摩書房.

27

- ・北日本放送株式会社編 1971. 『伝説とやま』北日本印刷株式会社.
- ・木場貴俊 2020. 『怪異をつくる：日本近世怪異文化史』文学通信.
- ・小松和彦 1985. 『異人論—民族社会の心性』青士社.
- ・小松和彦編 2000. 『怪異の民俗学3 河童』河出書房新社.
- ・小松和彦 2003. 『異界と日本人』角川文庫.
- ・而愠斎 [撰] 1755. 古今百物語評判. 太刀川清『続百物語集成』51-52. 国書刊行会.
- ・鈴木晃志郎・于燕楠 2020. 怪異の種類と分布の時代変化に関する定量的分析の試み. E-journal GEO 15(1): 55-73.
- ・平村史編纂委員会編 1985. 『平村史 上巻』平村.
- ・高岡市戸出町史編纂委員会編 1972. 『戸出町史』高岡市戸出町史刊行委員会.
- ・高田知紀・近藤綾香 2019. 妖怪伝承を知的財産として活用した防災教育プログラム. 土木学会論文集H（教育）75(1): 20-34.

26

- ・滑川市史編纂委員会編 1982. 『滑川市史 通史編』滑川市.
- ・南砺市平行政センター編 2007. 『平村史 続編』南砺市.
- ・日和裕樹 1977. 立山信仰と歎進. 高瀬重雄『白山・立山と北陸修験道』名著出版.
- ・根井浄 1980. 富山売薬と修験者について. 印度學佛教學研究 28(2):624-625.
- ・山田忠雄 1968. 『下学集』新生社.
- ・和田寛編 2005. 『河童伝承大事典』岩田書院.

28